

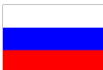
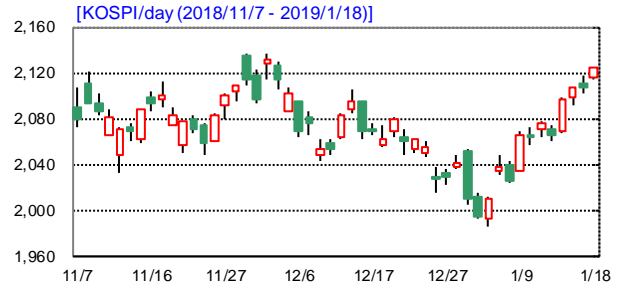


【韓国】 総合指数は 2.3%高と続伸、今週は 18 年 4Q の GDP 速報値に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.3%高と続伸。週明け 14 日は中国の弱い貿易統計が響き、反落して始まったが、15-18 日は 4 日続伸。スマートフォン新機種の月内販売が伝えられたサムスン電子など主力ハイテク株や半導体の SK ハイニックス、自動車株の現代自動車や起亜自動車などが買われた。中国当局の財政出動と金融緩和による景気でこ入れが好感された。18 日はムニューシン米財務長官が対中関税の引き下げを主張しているとの米メディアの報道を受け、米中貿易摩擦の緩和や交渉の進展に対する期待が高まった。今週は国内では 18 年 10-12 期の GDP (速報値) や 1 月の消費者信頼感指数、政策金利などが発表される予定。中国では 18 年 10-12 月期の GDP や 12 月の鉱工業生産、小売売上高など主要経済指標が発表される。

▼指数チャート

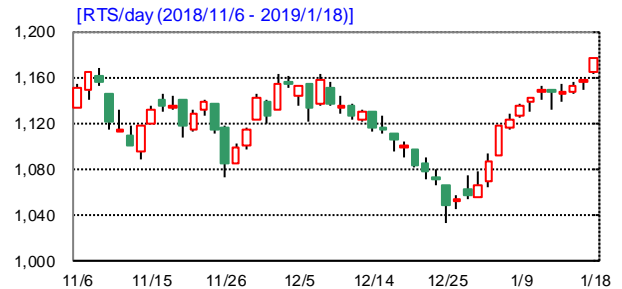


【ロシア】 RTS 指数は週間で 2.4%高と 3 週続伸、今週は原油高背景に堅調持続か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 2.4%高と 3 週続伸。米中関係の改善期待や中国の大型景気対策観測が好感されたほか、通貨ルーブルや原油相場の上昇も支援となり、指数は 3 カ月半ぶりの高値を付けた。前週に 2.7%高と続伸した流れを引き継いだ。中国が大型景気対策を実施するとの観測に加え、ムニューシン米財務長官が対中制裁関税の一部または全ての撤廃を提案するとの報道、原油相場や通貨ルーブルの上昇などを支援に指数は 15 日から 18 日まで 4 日続伸。時価総額トップのズベルバンク・オブ・ロシアが好決算を発表し、週間で 5.9%の大幅高となったことも相場を押し上げた。指数は 18 日に 1176.42 ドルで取引を終え、昨年 10 月 3 日以来の高値水準を回復した。今週は米中貿易摩擦の改善期待や原油高を背景に堅調持続か。

▼指数チャート



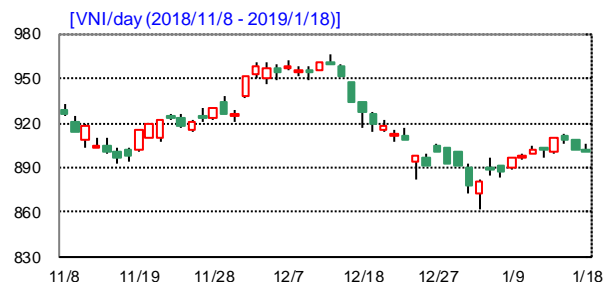
【ベトナム】 ベトナム指数は 0.05%安と小幅反落、今週は米中関係改善期待が支

援か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.05%安とわずかながら反落。中国の景気拡大期待を背景に 16 日に約 3 週ぶりの高値を付けたが、その後は高値警戒感から売りが優勢となり、週間ではほぼ変わらずで終了した。前週に 2.5%高と 5 週ぶりに反発した流れで、週前半は堅調な値動きが続いた。中国が景気を浮揚させるため一段の景気刺激策の導入を示唆したことに加え、中国人民銀行による連日の大規模資金供給も支援となり、多くの東南アジア市場同様に買いが向かった。不動産株や金融株を中心に上昇し、16 日には一時 912.48 ポイントと昨年 12 月 24 日以来 3 週ぶりの高値を付けた。しかし、週後半は高値警戒感から売りが優勢となり、週間ベースではわずかながら反落して引けている。今週米中関係改善への期待が相場の支援となるか。

▼指数チャート

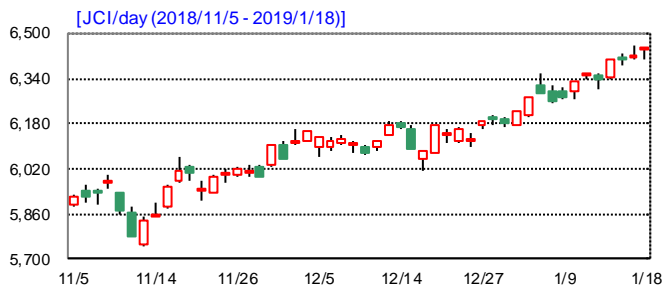


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.4%高、中国の景気刺激策強化を好感

ジャカルタ総合指数は週間で 1.4%高と 4 週続伸。週初こそ反落したが、その後は堅調な値動きだった。14 日は中国の 18 年 12 月の輸出入額がともに前年同月比で減少に転じた事態が嫌気され、4 営業日ぶりに反落。一方、15 日はインドネシアの 12 月の輸出額が市場予想から下振れしたものの、中国が景気刺激策の強化を示唆したことで買い戻され、指数は終値ベースで前日比 1.1%高と約 10 カ月ぶりに 6400 ポイント台に乗せた。週後半もじりじりと上値を広げ、結局 18 日まで 4 日続伸して取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、GDP を含む中国の経済指標の内容が相場を左右しそうだ。

▼指数チャート

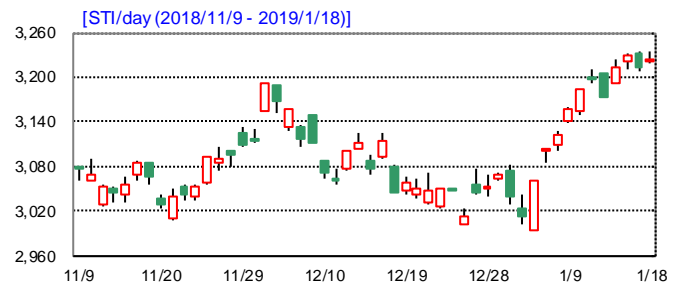


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.8%高、キャピタランド株が事業拡大発表で上昇

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.8%高と 4 週続伸。おおむね堅調に推移した。週初の 14 日は世界経済の減速懸念で売られて 7 営業日ぶりに反落。一方、15 日は中国の金融政策緩和の見通しに加え、前日に物流と工業団地事業の買収を発表したキャピタランドの株価上昇が指数を押し上げ、終値で前日比 1.2%高と節目の 3200 ポイントを超えた。17 日は 18 年 12 月の非石油地場輸出が前年同月比 8.5%減と市場予想から大幅に下振れした影響で反落したが、18 日には買い戻されて引けている。今週は 23 日に 12 月の CPI、25 日に鉱工業生産が発表される予定。NY ダウが前週末まで 4 日続伸したことは追い風。

▼指数チャート

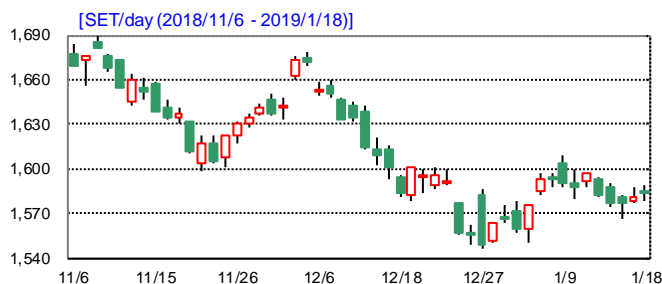


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8%安、今週は 18 年 12 月の貿易統計(通関ベース)が焦点

SET 指数は週間で 0.8%安と 3 週ぶりに反落。週後半に反発したが補えなかった。週初の 14 日は低調だった中国の 18 年 12 月の貿易統計を受けて世界経済の減速に対する警戒感が広がり、原油価格が下落した影響でエネルギー株が下げを主導。15 日も続落したが 16 日に下げ止まると、その後は OPEC が 12 月の生産量について前月比で 2.3%減少したと報告した効果で週末にかけて原油価格が回復し、指数は小幅ながら 18 日まで 3 日続伸した。今週は 21 日発表の 12 月の貿易統計(通関ベース)に対する市場の反応が焦点。外部要因では米中の閣僚級協議を翌週に控え、貿易摩擦緩和への期待が強まれば好材料。

▼指数チャート

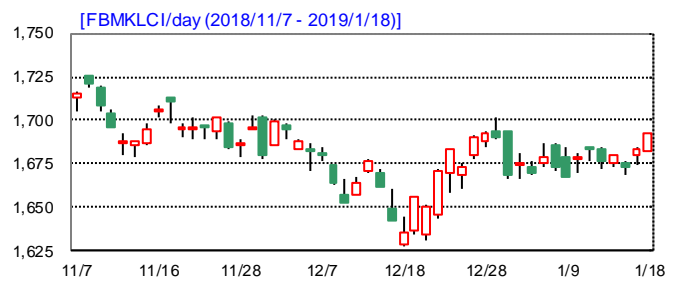


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.5%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

クアラルンプール総合指数は週間で 0.5%高と続伸。国内の経済イベントが少ない中、週末の上昇が指数を支えた。週初の 14 日は原油価格の下落を受けてペトロナス系 2 社が売られ、指数は 3 営業日ぶりに反落。その後は、中国の金融政策方針や EU 離脱問題を巡る英国議会の動きなどの外部要因が株式相場を左右し、17 日まで一進一退の値動きが続いたが、18 日は米中貿易摩擦解消への期待感と原油価格の上昇が買い材料となり、続伸して取引を終えた。今週は 23 日に 18 年 12 月の CPI が発表されるほか、24 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。21 日はタイプーサムの祝日で休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。